

令和4年3月31日

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 岡山県真庭市久世 2927 番地 2  
管理機関（代表の機関）名 真庭市  
代表者名 太田 昇

令和3年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年6月22日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	まにわし
管理機関名	真庭市
代表者職名	市長
代表者職名	太田 昇

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	めいけんこうぎょうかぶしきがいしゃ
管理機関名	銘建工業株式会社
代表者職名	代表取締役社長
代表者氏名	中島 浩一郎

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	おかやまけんきょういくいいんかい
管理機関名	岡山県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	鍵本 芳明

3 指定校名

学校名 岡山県立真庭高等学校  
学校長名 豊田 涼

4 事業名

自然・社会・人との対話で育む真庭型産業人材育成構想  
－「環境（SDGs）」×「アグリビジネス」⇒豊かな生き方・働き方－

## 5 事業概要

- ・中山間地域において自然と共生しながら持続可能な地域産業と地域を担う人を育むため、産業と教育に知見を有する真庭市職員をマイスター・ハイスクール CEO、銘建工業社員を産業実務家教員として真庭高校に配置するとともに、小中連携等に取り組む郷育魅力化コーディネーターの配置やコンソーシアムの構築により地域で高校教育を共創する。
- ・真庭高校において、真庭市の農産物を生産・加工・販売する6次産業化への学習を農商連携により展開するとともに、地域の農林業資源を活用した農業体験や観光プランの提案等を行うビジネスプランの作成に取り組む。地元関連企業と連携し、新商品の開発・提案を行うとともに、模擬会社スタイルの学習展開の中で起業家教育を推進する。

## 6 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設していない（検討中）
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

## 7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
豊田 涼	岡山県立真庭高等学校・校長
中島 浩一郎	銘建工業株式会社・代表取締役社長
太田 昇	真庭市・市長
鍵本 芳明	岡山県教育委員会・教育長
大月 隆行	真庭商工会・会長
岡田 茂樹	晴れの国岡山農協・真庭統括本部常務理事
澁澤 壽一	NPO 法人共存の森ネットワーク・理事長
池永 京子	Maman 代表
中村 妃佐子	株式会社 HAPPY FARM plus R 取締役

## 8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
平田 勉	マイスター・ハイスクール CEO
豊田 涼	岡山県立真庭高等学校・校長
中島 洋	銘建工業株式会社・総務人事部長
道満 洋和	岡山県商工会青年部連合会・理事
三村 伸行	NPO 法人真庭めぐりガーデンプロジェクト・ゼネラルマネージャー
牧 邦憲	真庭市・産業政策課長
赤田 憲昭	真庭市教育委員会・教育次長
室 貴由輝	岡山県教育庁・高校教育課高校魅力化推進室長
杉山 俊幸	岡山県立真庭高等学校久世校地・副校長
武村 克彦	岡山県立真庭高等学校落合校地・副校長
大越 健太郎	銘建工業株式会社・小断面工場長（産業実務家教員）
吉野 奈保子	NPO 法人共存の森ネットワーク・事務局長（真庭市郷育魅力化コーディネーター）
大岩 功	一般社団法人はにわの森・代表（真庭市郷育魅力化コーディネーター）
三村 公一	真庭支部中学校長会・会長

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①マイスター・ハイ スクールビジョン											■2/14 第1回運営委員会 ■2/14 CEO、実務家教員選任 ■3/24 ビジョン策定	
②地域を担う人材育 成カリキュラム												■3/11 事業推進委員会準備会
③地域産業学習カリ キュラム										産業実務家教員候補配置 (11/5~2/18)		
⑥真庭市郷育魅力化 コーディネーターと の連携	郷育魅力化 コーディネーター配置							真庭トライ&レポート 実施計画策定連携				
⑦活動を支援する体 制の構築				←			→					
				高校魅力化学習会 (7/2,7/19,8/4,8/31,9/16,)								
							■8/28 高校魅力化推進シンポジウム					
							■9/24 法人会協力依頼及び説明会					
							■12/3 商工会協力依頼及び説明会					
										■2/5 高校魅力化ワークショップ		

(2) 実績の説明

(a)管理機関による人的支援

本事業指定校の真庭高校は、令和4年度から学科改編という大きな変革の時期にあって、職業専門校としての魅力をさらに生み出すため、木質バイオマス産業では先端を行く真庭市内産業の人的資源を授業に活かすことを目指し、地元企業銘建工業株式会社に管理機関として参画してもらった。また、管理機関では、同社管理職社員を産業実務家教員として令和4年度より任用するため、令和3年度において実習講師として真庭高校の生物生産科に派遣をしている。また、高校教育への理解を深めるため、管理機関の一翼を担う岡山県教育委員会では、真庭市行政及び教育職員への高校魅力化学習会での講義の実施や本事業を遂行するための適切なアドバイスをを行っている。また、真庭市は本事業を通じた新たなカリキュラム編成を主導するマイスターハイスクールCEOに適する人材を確保するとともに、全庁挙げての応援態勢をとるため、庁内にプロジェクトチームを立ち上げ、産業部局を通じて真庭高校への支援を地元商工会、法人会等へ呼びかける等、地域産業界での応援体制に繋げるための支援を行っている。令和4年度は地域と高校をつなぐコーディネータを市教育委員会部局に新たに配置する。

(b)管理機関による財政支援

管理機関の代表である真庭市にとって、真庭高校は、地域産業の担い手として多くの産業人



⑤学校設定教科・科目の研究	←								→
⑥真庭市郷育魅力化コーディネーターとの連携						R4 真庭トライ&リ ポート打合せ			
⑦活動を支援する体制の構築		←	→						

## (2) 実績の説明

今年度は、指定を受けた新学科が立ち上がっていないため、④地域資源を活用した学習カリキュラムにおいて、以前から実施してきた地域貢献活動・地域交流活動を実施しながら、新学科へどのような形で継承・発展させるかを検討した。コロナ禍の影響で計画を中止又は縮小して実施せざるを得なかったが、生徒は熱心に取組み自己有用感や達成感を味わうことができた。

また、令和4年度以降実施予定の「地域企業と連携した取組」をバックアップしていただく連携先を開拓することができた。さらに新たな企業からも具体的な連携の提案をいただくことができ、次年度以降の活動につなぐことを検討している。

これらの取組みを「真庭高校 真庭型産業人材育成プログラム」及び総合的な探究の時間「真庭トライ&レポート」年間活動計画にまとめ、新学科の学習内容と地域連携活動の取組みを作成することができた。

「真庭高校 真庭型産業人材育成プログラム」は、大きく2つの流れで構成されている。

一つ目は、銘建工業をはじめとする地域企業や異校種との連携活動を、専門科目の学習内容に落とし込んで実施するものである。体験活動等の実施は、事前指導・事後指導をしっかりと行い、ルーブリック評価による自己評価を実施する。それらの記録は個人別にポートフォリオとし、進路学習で使用するキャリアパスポート作成に繋ぐという流れである。現在、新学科のシラバス作成に当たり、学習内容と連携活動の落とし込みを進めている。

二つ目は、1年次に実施する「真庭トライ&レポート」で地域をフィールドとした探究活動を行い、その成果を2年生以降の専門科目内で活用する流れである。新学科「食農生産科」・「経営ビジネス科」での学習を深化させるために農・商のコラボレーションを実施し、商品開発や企業への企画提案、ビジネスプラン学習、模擬会社等の起業学習に取り組むものである。

このプログラムについては、2月に実施された運営委員会で報告を行い、進路指導で使用するキャリアパスポート作成に結びつける内容などに評価をいただいた。

学校設定教科・科目に関しては、事業推進委員会と連携し、令和6年度の新学科完成年度開設に向けて研究を行う。

学校全体での実施体制は、二つの校地で新学科検討委員会を設置しているが、新学科の立ち上げの混沌とした状況である。今年度はCEOが配置できておらず、真庭市教育委員会と真庭高校が協力して運営を行った。産業実務家教員が令和3年11月から非常勤で配置されたことを受け、生物生産科において連携し、SDGs等の環境学習や労働安全教育などの授業を行っている。学校の状況を理解し、生徒との信頼関係を築きながら授業を実施している。令和4年度では、二つの校地を兼務しながら授業にあたり、地域産業界との連携やSDGs等の環境学習を展開する計画である。CEOが2月に行われた運営委員会で選任され、4月から常勤配置されることをふまえ、CEOを中心とした実施体制を構築する。また、校内実行委員会において事業の進捗状況を確認し、事業推進委員会・運営委員会へ報告する。運営委員会で成果の検証・評価を

実施し、事業推進委員会が計画・方法の改善を指定校とともに検討・改善する。

事業推進については、伴走者による伴走支援をいただき大変参考になった。管理機関と指定校の状況を理解した上で事業推進のアドバイスをいただいております、次年度以降も事業の方向性やPDCAサイクルの構築などに御協力をいただきたい。

今年度の事業成果については、学校ホームページへの掲載、学校情報紙「風の階段」等で生徒の取組みの様子を発信した。次年度以降は、ホームページ以外にもSNSを利用した情報発信や、真庭市と連携した広報紙への掲載など、真庭高校の魅力を発信する手法についてCEO・校内実行委員会を中心に検討・実施する。

## 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

本事業のビジョン策定に際し、事業目標として「自然と共生し、持続可能な地域と地域産業を担う人材の育成」を掲げた。指定校においては、地域に受け継がれてきた自然や産業を生かして学ぶ中で他者とともに課題の発見や解決に取り組むことのできる力を育み、自らの生き方と地域や産業の未来を重ねて考えチャレンジする人材を育成するという方向性を示した。

今年度は、コロナ禍の中ではあったが、実施方法を検討しながら各種の取組みを実施した。これらの取組みを通して、「真庭高校 真庭型産業人材育成プログラム」を策定するとともに、令和4年度実施の「真庭トライ&レポート」実施計画を決定した。

事業計画に示した目標値の進捗状況・成果・評価は次のとおりである。

### ◆真庭高校魅力化コンソーシアムに参加する団体及び個人→20以上

コンソーシアムとしての構築は今後の課題であるが、高校へのバックアップを受けていただいた企業等は35社であり、その後も連携の申し出を2社からいただいている。今年度については目標値達成に向けて良好な取組みができたと考える。

### ◆生徒の聞き書き等に協力する高齢者の数→5人/年

聞き書きの実施は令和4年度から実施する。真庭市郷育魅力化コーディネーターとの連携を実施しており、協力いただける高齢者への働きかけを実施中である。今年度は、未実施であるが、準備は進んでいると考える。

### ◆専門教科の中で地域に出て学ぶ機会の充実→授業時間の1/6

コロナ禍の中で、地域に出て学ぶ機会を設定することは困難であったが、感染症対策を十分に行った上で、こども園との植栽交流（2回）、真庭市の特産化を目指すフルーツパブリカ「ぱぷ丸」の普及活動と真庭食材の日（食材として「ぱぷ丸」を提供）による小学生との喫食、草花等の販売実習、ハーブガーデンでの学習会、銘建工業での工場&バイオマス&木造建築ツアー参加、SDGsを題材とした探究活動などを実施することができた。また、地域住民を対象とした校内外販売を実施し、地域との連携を深めるとともに、生徒の達成感や自己有用感の育成に努めた。

令和4年度以降、状況を見ながら実施をする。実際に地域へ出向くことに加え、オンラインでの機会設定も実施予定である。

### ◆小・中学校等と連携した事業の回数→3回/年

こども園との連携を2回、小学校との連携を1回実施できた。今後も異校種連携活動を充実させるため、真庭市郷育魅力化コーディネーターと連携して計画・実践を行う。今年度は、目標値達成ができた。次年度以降、さらに内容の充実を図る。

### ◆地域資源を生かした産業の創出に参画した件数→1件/年

JA 晴れの国岡山と連携し、地域の特産化を進めるフルーツパブリカ「ぱぷ丸」の栽培と普及活動に取り組んだ。高校で「ぱぷ丸」苗の生産を行い、地域の農家へ供給することができ、

産業創出には至っていないが、農作物の地域の特産化に参画することができた。

※以下の目標値については、令和4年度当初にアンケートを実施し、毎年生徒意識の変容を確認し、検証を行う。

◆地域連携活動に取り組んでいる生徒の割合→60%

◆これから先、どのように生きていきたいかを考えている生徒の割合→80%以上

◆真庭市に誇りを持てるという生徒の割合→80%以上

## 1.2 次年度以降の課題及び改善点

令和4年度の事業内容として、次の点に取り組む。

- ①本年度策定した「真庭高校 真庭型産業人材育成プログラム」に基づき、真庭高校がこれまで実施してきた地域連携活動を、再検討し、継承・発展させるために専門科目へ具体的に落とし込む必要がある。また、令和6年度開設を念頭に、地域理解を深めるための学校設定教科・科目として、地域農業ガイダンスや農・商連携した学習の検討を進めており、具体的かつ効果的な案を作成する。
- ②産業実務家教員の配置や具体的な連携活動の提示が遅れたため、銘建工業との連携活動を軌道に乗せることができなかった。この連携活動を実施するために、銘建工業との連携を強化するとともに、産業実務家教員による指導内容をシラバスに明示し、実践する。
- ③異校種との交流活動を実施し、真庭高校の学習を地域へ発信していかなければならないが、その活動をコーディネートすることが課題である。特に小・中学校との連携が重要であり、真庭市郷育魅力化コーディネーターと連携し、異校種との連携活動を実施する。
- ④地域産業界との具体的な協力体制が十分でないため、CEOを中心に事業推進委員会の助言をいただきながら協力体制を整える必要がある。一つ一つの連携を「真庭高校 真庭型産業人材育成プログラム」に盛り込み、実施・検証を図り、地域産業の担い手を育成する。
- ⑤地域産業界からの応援の声は聞こえているが、より具体的な支援に結びつけるため、真庭高校と地域産業界の対話の機会を設定する必要がある。管理機関を中心に地域産業界からの支援体制を確立したコンソーシアムの構築を図る。